

# WPIプログラムの次期構想(案)

平成28年3月9日(水) 第7回戦略的基礎研究部会  
研究振興局 基礎研究振興課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 平成27年度WPIプログラム委員会の結論(要約)

## 1. WPIプログラムの継続について

- 平成19年度採択拠点は、“World Premier Institute”を達成。
- WPIプログラムは、ミッションと支援スキームを再設定し、継続。
- WPIプログラムを、拠点の“代謝”によりさらに推進。
- 平成29年度に新規拠点公募。

## 2. 補助金支援期間終了拠点への支援

- ホスト機関長は、自助努力によるWPI拠点の維持を約束。
- 拠点が達成した卓越性に鑑み、何らかの補助金支援期間終了後の支援スキームを整備し、WPIブランドを維持。
- WPI基準を満たした拠点によって構成される“WPI Academy”または“WPI Association”システムの立ち上げ。
- “WPI Academy”及び“WPI Association”システムは、定期的(例えば3年毎)にWPI基準に沿った活動状況の評価を受ける。

# WPIプログラムのこれまでの成果とこれからの課題

| これまでの成果   | 現状の課題・検討すべき論点  | 目指す方向   |
|---|--|---|
| <p><b>プログラム全体</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○WPIプログラムは「成功」</li> <li>○PD・PO等による進捗管理</li> <li>○プログラム委員会による評価</li> <li>○組織作りへの支援の有効性</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラム終了時の制度設計の不備（含支援の延長）</li> <li>○ミッションの見直し（優先度、学生の受入）</li> <li>○拠点間の競争</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>○支援終了後の拠点機能維持の観点からのプログラム再定義</li> <li>○新規拠点公募によるプログラムの継続</li> <li>○拠点間の情報共有の促進</li> </ul> |
| <p><b>世界最高レベルの研究水準</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○極めて優れている</li> <li>○新しい財源獲得の試み（産学連携、寄付等）</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価活動に伴う負担</li> <li>○客観的評価体制の整備が不十分</li> <li>○兼任のPIが多く、成果が不明瞭</li> <li>○短期的に成果が出やすいテーマ</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○評価体制・基準の見直し（POの役割の明確化・強化等）</li> </ul>   |
| <p><b>研究組織の改革</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○新制度のモデルケース（例：クロスアポイントメント制度、トップダウンの運営）</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○組織全体へ成果が拡大しない</li> <li>○執行部にとってのWPI拠点の意義</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○プログラムの枠を超えた研究組織改革の仕組み</li> <li>○組織全体の新陳代謝促進策をプログラムの中に導入</li> </ul>                      |
| <p><b>国際的な研究環境の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○英語対応できる事務職員等革新的な運営環境</li> <li>○若手研究者育成に大きく貢献（自立した研究環境の実現等）</li> <li>○国際共同研究の推進</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○必要な事務職員の慢性的な不足</li> <li>○事務職員・技術補佐員のキャリア形成</li> <li>○研究環境の整備のあり方</li> <li>○女性の参画など多様性確保</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○国際化に対応した事務職員の育成を含む国際機能維持</li> <li>○海外との組織的な連携の推進</li> </ul>                             |
| <p><b>融合領域の創出</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○分野融合的な研究が進展</li> <li>○世界的にもユニークな拠点</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○分野融合の自己目的化</li> <li>○人文・社会科学の基礎研究</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○異分野融合の位置づけ</li> <li>○人文・社会系の研究の取込み</li> </ul>   |

# WPIプログラムの4つのミッションの見直しと国の支援のあり方

|   | ミッション        | 具体的な内容  | 拠点・ホスト機関 | 国の役割  |
|---|--------------|---|----------|---|
| ① | 世界最高レベルの研究水準 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○トップレベル研究者の物理的集積</li> <li>○トップレベルの研究成果</li> <li>○過去類を見ない規模・海外財団からの寄付など外部資金獲得の実績</li> </ul>   | ◎        | 競争的資金   |
| ② | 新しい研究領域の開拓   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○異分野融合等による新しい研究領域の開拓</li> <li>○PIから自立した若手の研究環境</li> </ul>  | ◎        | 競争的資金   |
| ③ | 組織改革の先導      | <ul style="list-style-type: none"> <li>○システム改革の先導役</li> <li>○組織内人事交流のハブ</li> <li>○技術補佐員・マネジメント人材の配置</li> <li>○大学院生の研究活動参画支援</li> </ul>  | ○        | <div data-bbox="1404 799 1757 953" style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;">                     国のシステム改革との連動                 </div> |
| ④ | 多様性のある研究環境   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○外国人研究者の割合が30%以上</li> <li>○英語使用が標準</li> <li>○年金・保険など生活面での支援</li> <li>○海外のトップ研究組織との連携</li> <li>○先進的な共通機器システム</li> <li>○国際的なアウトリーチ活動</li> <li>○女性の参画の促進</li> </ul> | ○        | <div data-bbox="1674 649 1951 1139" style="border: 2px dashed red; border-radius: 15px; padding: 10px; display: inline-block;"> </div>                          |

世界に「目に見える」**拠点の組織としての基盤**であって  
**安定的・持続的**に整備・維持されるべき部分を国が支援。

# WPI次期計画に向けての実績と方向性

## (実績)

- **世界から見える拠点**を目指す研究システム改革(研究費ではない)。
- トップダウン運営、クロスアポイントメント、民間財団からの巨額寄附など**進んだ仕組み**を先導。多くの**外国人**の受け入れ実績、体制の整備。
- (研究費でなく)制度を整えることで、**世界のトップレベルに到達**できることを実証。
- 近年進む種々の**改革の方向性**に完全に合致。**先導的な実証例**

## (方向性)

- 次の方向性(**更に先の高い目標**)を提示する
- WPI拠点以外へ学内・学外への拡がりが課題。先導的取組や国際的な**ブランドを高めつつ**、学内・他の大学に対して、**外から改革を迫る手段・参照すべき手本として政策的に活用**。 →**新規拠点、アソシエーション(仮称)**
- 文科省内の**他の制度との一体的運用**で、財政的な制約の中での**政策の最適化、投資効果の最大化**の先行事例となる

# WPI Association (仮称)の新設

10年間のWPIプログラムで構築された、世界に「目に見える」トップレベルの研究拠点。日本の科学技術の国際的プレゼンスを向上させるとともに、文科省の進めるシステム改革を、その実証例として強力に先導。

**WPI Association (仮称)**

文部科学省

← 一定の支援

← 運営費

↑ **アソシエーション事務局**

- ・国際性などに関する指標
- ・エクセレンス評価
- ・POからのサイトビジット報告 等

プログラム委員会による  
厳格な審査

WPI拠点

## <主な機能>

1. アソシエーション拠点全体のネットワーク化、全体の事務局
2. アソシエーション拠点持つシステム改革のノウハウを収集し、必要とする機関に展開。WPIプログラムの課題である成果の拡大を事務的な側面からサポート。

### ● 拠点間の情報共有のハブ

- ・拠点が蓄積してきた各種ノウハウの集約・展開
- ・拠点間を渡り歩いて情報を集めるスタッフの配置

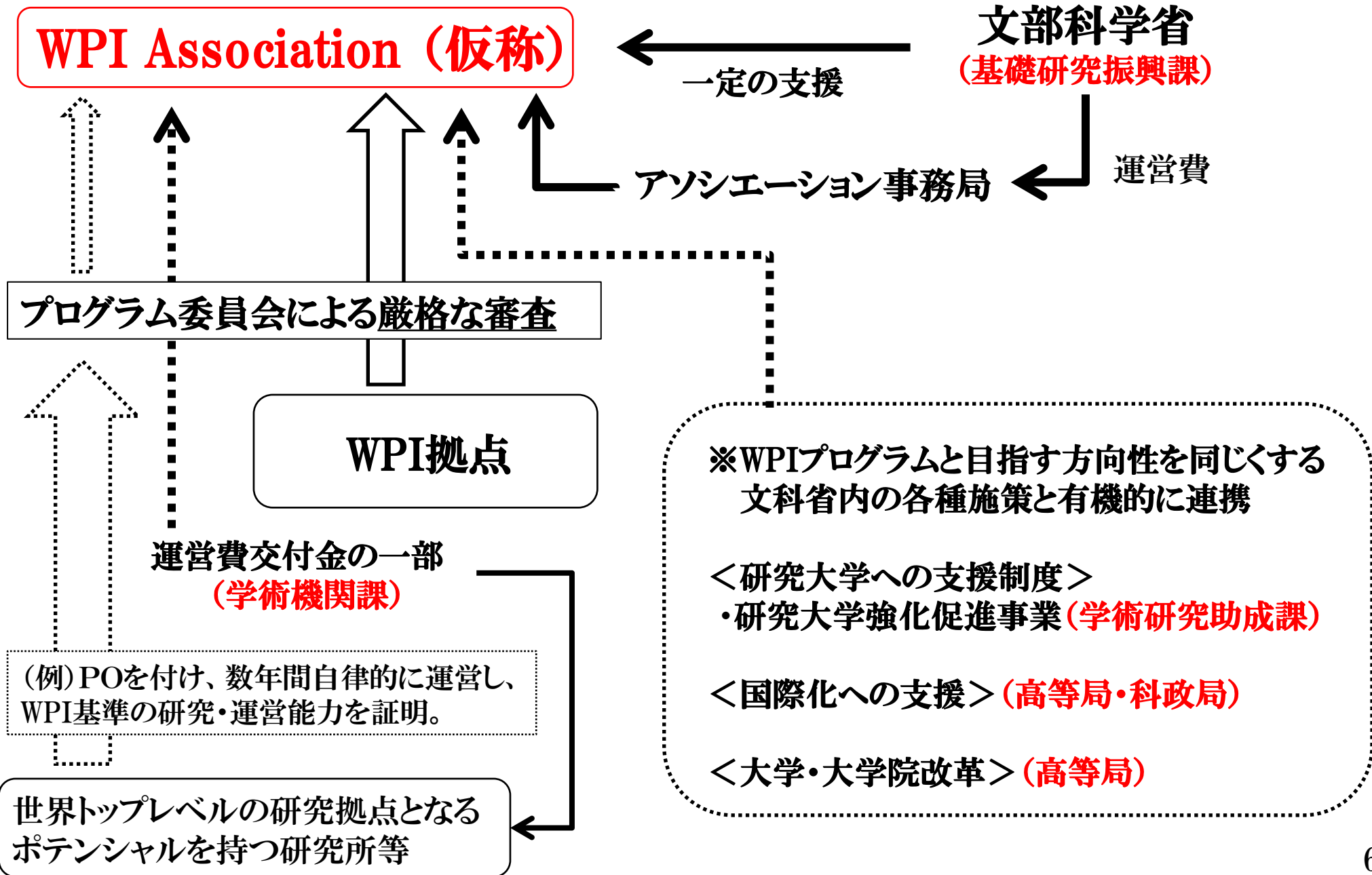
### ● 若手研究者のリクルートのサポート

- ・国際公募のノウハウの共有。人材募集情報の一元化

### ● スタッフの機能強化支援

- ・事務職員のためのトレーニング
- ・海外REI拠点との相互交流、アウトリーチ活動の窓口

# WPI Association (仮称) を中核とした施策の連携 (案)





# 新規拠点公募の考え方について

＜新規拠点公募の位置づけ＞(平成29年度実施予定)

国際的頭脳循環のハブとして、WPI Association(仮称)のメンバーとなる拠点を育成するプログラム。



- 新規公募拠点の基本的ミッションは、以下の4つ。
  - ① 世界最高レベルの研究水準
  - ② 新しい研究領域の開拓
  - ③ 組織改革の先導
  - ④ 多様性のある研究環境
- 人材育成機能の強化、既存組織のスクラップ&ビルド、テニユア定員の配置計画の要件化を検討。
- プログラム支援事務局からの情報提供などの支援により、拠点形成を加速。
- 支援期間は10年間。5年間の支援期間延長制度は廃止。新棟建設費の補助。
- 既存拠点が過去と同一の拠点構想で応募することは不可。  
ただし、同一ホスト機関が別の拠点構想を応募することは可能。